

令和元年度
政務調査研究報告会

会派のぞみ
報告議員 塚平一成

令和元年9月19日
飯田市議会

会派のぞみ 前記政務調査 視察先

7月16日(火) 島根県出雲市

- ① 自治会等応援条例について
- ② 新エネルギー推進事業について

7月17日(水) 島根県雲南市

- ③ 地域自主組織による住民主体のまちづくり
- ④ コミュニティビジネスで過疎のまちを再生に

7月18日(木) 広島県福山市

- ⑤ 義務教育学校の取り組みについて

島根県出雲市

県土の東部に位置し、2市4町による平成の大合併で誕生
平成23年には斐川町を編入合併、出雲大社などが有名



面積 624.3平方km
人口 17万5593人
世帯数 6万6456世帯
(うち住基世帯は6万3314世帯)

自治会加入世帯4万318世帯(住基世帯の63.7%)

2,334を数える「単位町内会」(契約自治組織)と、この上位に当たる「自治協会」(65地区)、「自治協会連絡協議会」(7地区)、これらを連絡調整する「自治会連合会」で体系づけられている。

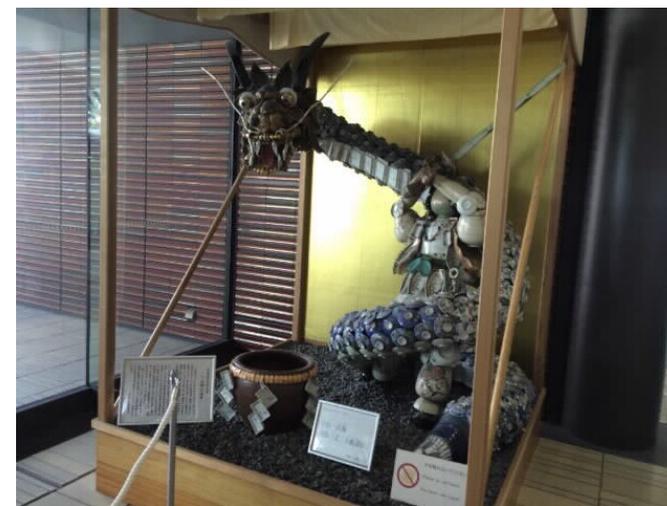
出雲市

① 自治会等応援条例について

訪問先 出雲市役所

(写真は市役所1階にて、茶碗で作られたヤマタノオロチ)

自然災害の経験等から人と人とのつながりや地域コミュニティの重要性が再認識される中、**基本理念と市や議会の責務、地域住民や自治会等及び事業者の役割**を明らかにし、地域コミュニティの中心的な担い手である自治会等を応援する目的で



平成27年(2015年)3月

議員提案の**「出雲市自治会等応援条例」**を制定

条例制定までの流れ

地域コミュニティへの危機感から
「自治会強制加入の条例を検討しては」の声あり

強制加入は法的に認められないが
「加入を呼びかける自治会の取り組みを応援することは出来る」と考え

先進地である所沢市を視察

議会内に検討委員会を設置
行政担当課長や自治連合、商工会議所、JA、宅建協会等の意見を聴く

半年後に条例案を策定し、全員一致による議会可決

加入促進啓発チラシの配布
など広報啓発活動

「元気！やる気！地域応援
補助金」など自治会への支援

自治会等への設立
加入促進の取り組み

町内会（自治会）に対し
加入促進マニュアルを作成
加入促進活動の手引きや想定問答
各自治協会の優良事例などを記載

自治会（町内会）は、あなたにいちばん身近な地域の集まりです

市長からのメッセージ
自治会（町内会）の活動を応援します！！
自治会（町内会）は、地域住民の話し合いなどにより自主的に運営されている、最も身近な住民自治組織です。出雲市には、現在約2,400の自治会（町内会）があり、自治会の活動は、住みよい地域づくりのためにとても重要な役割を担っています。地域のつながりの中で、市内のどこに住んでいても、人と人が支え合いながら、心豊かに安心して暮らせ、「ずっと住み続けたい」「住んで良かった」と思えるまちとなるよう市も全力で応援していきます。

地域が交流した豊かな暮らしをめざしています！！
「地域の行事を楽しみたい」「町内の方と交流したい」地域の祭りや文化祭、運動会やスポーツ大会などのイベントを通じて、交流と親睦を促しています。
「近所の人ともっと親しくなりたい」親睦会や旅行、趣味の会などを開催しています。
「市の広報紙を定期的に受け取りたい」「地域の行事や連絡事項を知りたい」「広報いずも」など市や各種団体からの情報紙等の配付や情報伝達を行っています。
「地域の困りごとを市に伝えたい」地域の要望などをとりまとめ、市などに伝える活動を行っています。

いざという時、頼りになります！！
「水害・火災・地震…大きな災害が起こったときには…？」自治会（町内会）など普段から交流している身近な方々が頼りです。また、自治会など、そのつながりを活かした自主防災組織が、防災訓練などに取り組んでいます。
「子育てに不安はないですか？」「地域でいっしょに子どもたちを支えませんか？」子育てを支える活動（子育てサロン、子ども会活動、通学見守り活動など）を行っています。
「独り暮らしで不安はないですか？」高齢者サロンや防犯見守りなど、それらの活動の支援などを行っています。その他が防災・交通安全、環境美化・清掃など、身の周りのさまざまな課題に取り組んでいます。

出雲市自治会等 市では、道徳授業により「出雲市自治会等の趣意書」を定め、巨額なる自然災害の経験から、地域のつながりの重要性が認識され、市や団体の役員、地域住民や自治会および事業者の役割を明らかにし、自治会（町内会）を応援しています。

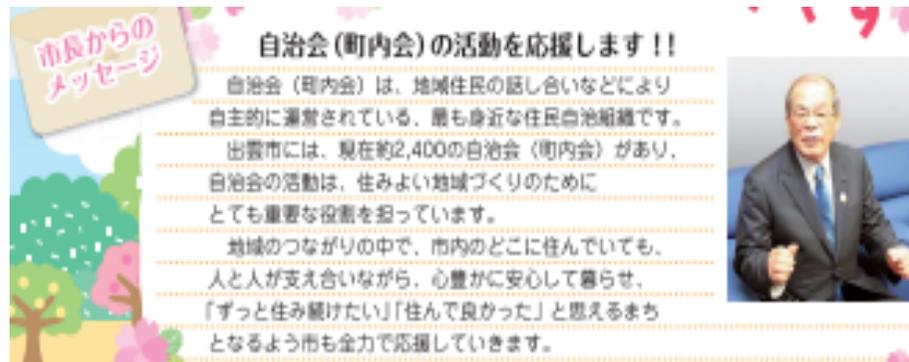
飯田市に活かせる観点

町内会加入促進マニュアルを促進している点は、数年単位で役員が交代する状況を考えると、拠り所になるマニュアルが整備されているのは心強いのでは

条例を自治会の応援とともに、「攻める、守る」道具として使っていく視点

未加入、組合の脱退を数値化（見える化）している、飯田市でもどこかで調査、整理する必要があるしそれがないと支援策に進まないのでは

加入促進リーフレットに市長からのメッセージが



市長からのメッセージ

自治会（町内会）の活動を応援します！！

自治会（町内会）は、地域住民の話し合いなどにより自主的に運営されている、最も身近な住民自治組織です。

出雲市には、現在約2,400の自治会（町内会）があり、自治会の活動は、住みよい地域づくりのためにとても重要な役割を担っています。

地域のつながりの中で、市内のどこに住んでいても、人と人が支え合いながら、心豊かに安心して暮らせ、「ずっと住み続けたい」「住んで良かった」と思えるまちとなるよう市も全力で応援していきます。



出雲市

② 新エネルギー推進事業について

訪問先 出雲エネルギーセンター
(写真はエネルギーセンターのパフレット)

新エネルギー施策を、
「出雲未来図」(目指すべき将来の姿を示した
新しい出雲の國づくりの計画)
の基本方策、戦略プロジェクトに位置付け



平成20年(2008年)

「出雲市次世代エネルギーパーク整備計画」策定→経済産業省より認定

次世代エネルギーパーク

次世代の再生可能エネルギーに見て触れる機会を創り、地球環境と調和した将来のエネルギーの在り方への理解の増進を図る計画を、経済産業省・資源エネルギー庁が認定。

市全体を
エネルギーのテーマパークと位置付け

写真は出雲エネルギーにおける研究センターもエネルギーパークに位置づけ



出雲市次世代エネルギーパーク

中核施設
出雲科学館

次世代エネルギー学習の拠点施設。新エネルギーに関する情報発信や中学生への理科学習などを行います。

サテライト施設
ケイブの十六島風車公園

新出雲風力発電所に隣接する公園。風力発電や太陽光発電などに関する情報発信を行います。

風の子空の館

風力・太陽光・熱源などの自然エネルギーについて学ぶ体験施設。土曜日は子供向けのワークショップを行います。

出雲市役所

屋上の太陽光発電設備(70kW)で庁舎の稼働力の一部をまかなう。1階職員室内で発電量を表示しています。

雲根環境学習館

環境と自然エネルギーに関する学習施設。自然素材やリサイクル素材を使ったものづくりも体験できます。

新エネルギー等生産施設
ユース超超密風力発電所

新出雲風力発電所の日本最大級の風力発電所(74,000kW・26基)。平均発電量は約40,000世帯の消費電力に相当します。

出雲エネルギーセンター

環境ごみ処理施設。焼却時の熱源も利用して発電し、自家消費する54kWが、社会貢献が電力会社へ供給されています。

出雲市新築型空ゆかり館

木質チップボイラーを導入。市内チップ工場で生産された木質チップにより、温室を加熱しています。

キョフツクリマキ風力発電所

出雲市が建設する風力発電所(1700kW・850kW・2基)。平均発電量は約500世帯の消費電力に相当します。

○ 中核施設 (新エネルギー等に関する拠点施設)
▲ サテライト施設 (中核施設と連携して、新エネルギー等に関する施設)
◆ 新エネルギー等生産施設

施策

「神話の國出雲バイオマス活用推進プラン」の作成

削減したCO2をクレジット化し販売
「神話の國出雲さんさん倶楽部」

中小水力発電の事業認可調査、
地熱地中熱の温泉熱可能性調査等

出雲科学館、風の子学習館、等を
普及啓発、環境教育施設として整備

市民向けバスツアーを年2回開催し
関心を持ってもらう機会を創出

風力発電の推進

新出雲ウインドファームの風車間近への
「風車公園」設置、キララトウーリマキ風力
発電所が道の駅と一体的に整備され(写
真)、経産省「新エネ百選」に選定



「みんなでつくる出雲の森事業」
出雲須佐温泉への木質チップボイラー導入
や県内の木質バイオマス発電事業への木
質チップ供給

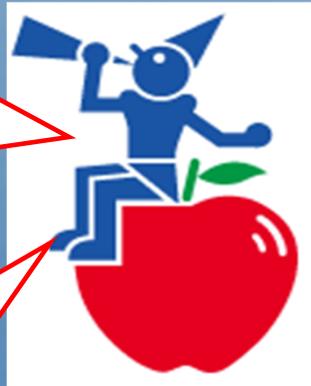
飯田市に活かせる観点

出雲科学館等は**常設施設として普及啓発に重要**で、市民向けバスツアー等は他の新エネルギー関連施設への**関心を持ってもらうのに効果的**

中小水力発電の調査において、試算した結果全て赤字であり設置には至らなかったが、今後何らかの条件が変わるとすればすぐに導入の検討に入れるので**このような調査は重要**と捉える

キララトゥーリマキ風力発電所が道の駅との**一体的な整備**がされ、経産省「新エネ百選」に選定されている点は、**観光や賑わいとの融合で一石二鳥の成果を上げる観点**からも参考にした

「行政の役割は、**事業主体ではなく民間事業が新エネルギーの事業や導入を円滑に実施できる環境づくりをして行く事が大切**」という観点



島根県雲南市

平成16年11月1日、6町村で合併し「雲南市」誕生
市内全ての地域が中山間地域で、全域が過疎指定



面積 553.2平方km

人口 3万9,032人

高齢化率 36.5%

(平成27年国勢調査)

- たたら製鉄の遺構で全国唯一の現存する高殿「菅谷たたら高殿」を有する(ジブリ作品もののけ姫のたたら場のモデルとされる)
- スサノオノミコト、クシイナダヒメが造ったとされる「日本初之宮」須賀神社・和歌発祥の地

雲南市

③ 地域自主組織による住民主体のまちづくり

訪問先 雲南市役所
(写真は担当者よりのヒアリングの様子)

～雲南市の地域自主組織～

集落機能を補完する新たな自治組織である
「地域自治組織」が各地域において
住民発意で発足
概ね小学校区ごとの各地域で順次発足し
雲南市内全域で30組織が活動



小規模多機能自治による住民主体のまちづくり

地域自主組織の概要

概ね小学校区で
広域的な地縁組織を編成

市内全域に30組織
(例:吉田地区振興協議会)

常設の事務局(常勤2名+非常勤)
全て地域自治組織で雇用

取り組みの主要3本柱

持続可能性の確保【地域づくり】 安心安全の確保【地域福祉】 歴史・文化の活用【生涯学習】

活動拠点の整備 公民館から交流センターへ(平成22年度から)

地域課題を住民自らが事業化して解決できる仕組みの構築

小規模多機能自治推進ネットワーク会議、全国の学び合いの場「雲南ゼミ」等
小規模多機能自治の先進地として全国に発信

地域の総力を結集した「課題解決型」自治の取り組みの例

地域づくり

- 公民館を交流センターにすることで経済活動が可能になる
→ 自主組織によるマーケット開店

はたマーケット(写真)

～自主組織による買い物支援～

- ★ 地区唯一の商店の閉店がきっかけ
- ★ 交流センター内に商品棚等導入して開設
→ 事務局が店員となり新たな人件費は無し
- ★ 喫茶スペースも併設、交流の場に



地域福祉

- 市水道局との委託契約で水道検診を受託、全世帯への訪問と声掛けにより見守り力強化(写真)
- 黄色い旗運動
朝玄関先等に掲げ夕方しまう事で安否の確認
- 福祉カード(住民台帳)作成
- お願い会員・まかせて会員
登録名簿の作成



歴史・文化の活用

- 廃校活用による体験型宿泊施設での交流体験活動(写真)
- 伝統文化継承の一環として「深野神楽子ども教室」開講
- どぶろく&田舎レストラン運営事業



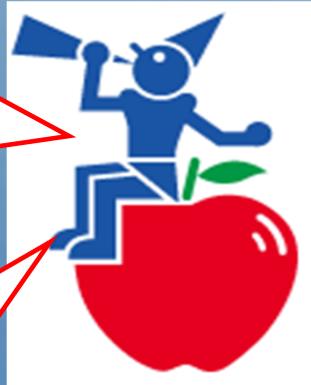
飯田市に活かせる観点

地域の課題を住民自らが「事業化」して解決を目指す点

一世帯一票ではなく一人一票制度により、今まで参加できなかった若い人や女性・高齢者の声を反映でき、地域崩壊の危機を住みやすい地域づくりへの新たな地縁モデルの結成

コンパクトシティと多心型社会を区別をして、各地域の個性、価値を発揮され、また経済活動も可能にすることで取り組み内容の幅が広がっている点

全国的なネットワーク化を図り展開されている、また自治に於ける「法人格」の研究を進めその必要性を訴えて、国に対し提言を行っている点



雲南市

④ コミュニティビジネスで過疎のまちを再生に

訪問先 株式会社ふるさと村
(写真は会社前において)

地域の資源を生かし、地域雇用創出や人材誘導に寄与し、外貨獲得など結果の出る先進的取り組みをされている企業のノウハウを学び、リニア新時代を迎えるにあたり、新規の交流人口創出のためにも、迅速に対応すべき事案と捉え視察に伺う



株式会社吉田ふるさと村

地域密着型第3セクターの歩み

設立 昭和60年4月1日

背景 急速に進む人口減少と高齢化による「むら」消滅の危機から

出資構成→市が25%で、他の75%は地元企業(JA、森林組合、建設会社等)や個人(住民や出身者)、市からの損失補填は受けないという考え方

創業時は年商4000万円ほどで6名のスタッフ
(現在は年商3億円以上、従業員60人程で、Uターン者の雇用もかなりの割合)

平成21年7月、観光事業部を新設
赤字であるが地域貢献の観点から事業を続けている

創業時から商品づくりにこだわり、販路のターゲットを、村から近くの大阪や広島でなく、東京圏に定め展開した結果、成果が生み出される

こだわりの商品づくり

たまごかけごはん専用醤油 「おたまはん」の開発

養鶏が盛んだが卵だけでは高収益が見込めず、発想を転換し、卵を他の製品とセットで付加価値を高めることに着眼。おたまはんは、マスコミが取り上げた事により40万個／年の売り上げがあったと言う。平成17年(2005年)より「日本たまごかけごはんシンポジウム」を開催、全国発信を続けている。



多様な商品ラインナップ

※杵つきもち
※おにぎみそ
※焼肉のたれ
※他調味料
原料は地元農家と契約し栽培された野菜・お米を使用、食品添加物を加えない安全な食品加工で、こだわりの商品を製造。

お取扱商品ご紹介

吉田ふるさと村のお買い物サイト「だんだん市場」でお買い求めいただける商品をご紹介します。ここで掲載している商品以外にも、季節限定・期間限定の商品をご案内しております。ぜひ、「だんだん市場」にお立ち寄りください。(以下の商品名をクリックすると、それぞれの商品ページが別のウィンドウで開きます。)



杵つきまるもち	おたまはん 関西風	おにぎりみそ 唐辛子
杵つきまるごもち	おたまはん 関東風	おにぎりみそ 山椒
杵つき玄米もち	おとらはん	おにぎりみそ 生姜
杵つき五穀もち	【吉田くんラベル】	おにぎりみそ 柚子
杵つき蕎麦もち	おたまはん 関西風	
杵つき十七穀もち	おたまはん 関東風	



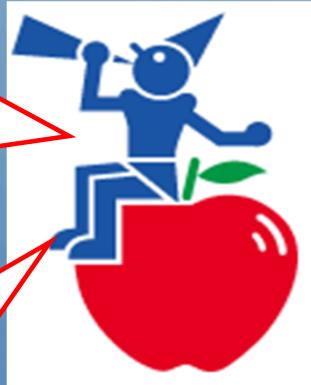
飯田市に活かせる観点

リニア新時代の到来で大都市圏が身近になり商圈が飛躍的に拡大する、そのビジネスチャンスを生かすためにも、今から**都市の求めを的確に把握し、時代の変化への対応**が求められる

「日本たまごかけごはんシンポジウム」を開催、**日本全国から当地に来てもらう仕掛け**を作り、関連する自治体との連携が取れている

地域の資源を生かし、地域雇用創出や人材誘導に寄与し、外貨獲得など結果を出すべく取り組まれ、人口減の現状や現役世代の流出の軽減に尽くされている

積極的なプロモーション活動と、各都市の性格を分析し、その地域のニーズに応じた戦略がとられている



広島県福山市

県東部に位置する中核市
鞆の浦、福山城などの歴史・文化的資源を有する

面積 518.14km² 人口 46万9,135人
世帯数 21万381世帯 (2019年7月現在)



福山市

⑤ 義務教育学校の取り組みについて

訪問先 福山市立鞆の浦学園
(写真は校内の「ふれあいホール」にて説明の様様)

新教科として鞆学(ふるさと学習)を設け、
前期1～4年(基礎、基本の習得)、
中期5～7年生(学びの活用、充実期)、
後期8、9年生(進路実現期)と
学年段階の区切りを4-3-2とする。



平成31年(2019年)4月

施設一体型義務教育学校「鞆の浦学園」開校

経過

2014年4月 連携型小中一貫教育推進モデル校指定(鞆小学校-鞆中学校)

2015年4月 福山市内全域にて小中一貫教育実施(取組は2012年から)

2016年4月 義務教育学校としての設置を決定
(国制度として義務教育学校新設された年度)

2017年～ 全体会議・部会の開催
南棟校舎の建替え、中棟・北棟校舎・屋内運動場は大規模改修

2019年4月 義務教育学校「鞆の浦学園」開校(福山市初)

特色ある教育

全市から通学可(校区外からの通学生12名現在)

南棟1Fにステージも設置したオープンスペース「ふれあいホール」を子どもたちの作品、鞆の伝統文化の展示や地域・保護者との交流の場として使用



図書館とパソコン教室を兼ねたメディアセンター(赤城かん子氏監修)、生徒が貸出運営



鞆学(ふるさと学習)

地域の課題を自ら発見・解決の学習(全学年)

鞆の魅力を

「TOMOブランド」として発信(5年生)

観光冊子の発刊(写真)(6年生17名)

「TOMO活性化プラン」を企画(8年生)



外国語学習

ラウンドシステムの導入(7~9年生)など、計画的・系統的な外国語教育の実施

ICT教育機器の活用、専属ALTの配置

鞆学&外国語学習

鞆学での学びから、英語による地域来訪者へのガイドボランティア(6年、9年生)

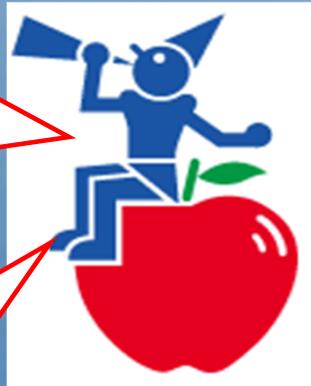
飯田市に活かせる観点

開校までの経過の中、小学校6年・中学校3年という固定観念の壁の払拭に心を配ったとのことで、この取り組みは**基本方針である韞Spirit・韞学**を住民の多くが**理解・サポート**していることにつながっていると感じた

地域の自然・人・歴史・伝統・文化を素材にした学習により世界に視野を広げ、社会のために実践する力を育む、「**新教科ふるさと学習(韞学)**」は素晴らしい。(義務教育学校では独自教科設定が可能)

学力については、施設分離でも成果は期待できるが、施設一体型の義務教育校は**子どもたちが一緒に学校生活を送り、育ち合い・学び合いの場と人間形成の場**になっている

施設に関して、**図書館とパソコン教室を兼ねたメディアセンター**では床に座って読書ができ、ふれあいホールではステージの設置もでき、**地域の人達、保護者との交流の場**となっている



ありがとうございました。

